



DX時代の多様化する SaaSデータ／電子コミュニケーションへの コンプライアンス対応

(Veritas Enterprise Vault.cloud & Merge1 ご紹介)

ベリタステクノロジーズ合同会社

Agenda

- 法規制対応／電子情報開示の準備の重要性
- 米国民事訴訟における eディスカバリ の位置づけ
- EDRM（eディスカバリ参照モデル）の流れ
- eディスカバリ・ソリューション 選定ポイント
- ベリタスの電子情報開示支援ソリューション
- 補足資料

- **法規制対応／電子情報開示の準備の重要性**
- 米国民事訴訟における eディスカバリ の位置づけ
- EDRM（eディスカバリ参照モデル）の流れ
- eディスカバリ・ソリューション 選定ポイント
- ベリタスの電子情報開示支援ソリューション
- 補足資料



DXの劇的な加速

“ 私たちは、生き残るためにデジタルトランスフォーメーションの取り組みを加速せざるを得ない。
私たちの3年間の変革戦略は、3ヶ月の期間に強制されました。
痛みを伴いましたが、我々はそれをやり遂げました。

フォーチュン2000
ベリタスのお客様の声

急増するSaaSアプリケーションの導入

3億

Microsoft 365
アクティブシート数

9400万
ユーザ

Microsoft Teams
2020年に純増した
アクティブユーザ数

7300社

Box Japan 2021年1~7月で
国内導入社数が
1400社増の約7300社に

コミュニケーションツールの多様化

コミュニケーションは、**コラボレーションツール**、**ソーシャル**、**テキストメッセージ**などに拡大しています
データ保持、**データプライバシー**、**コミュニケーションの監視**などに関する**新たな規制**が急速に生まれています

25%

従業員の 25% が、**1日の半分以上を電子メール**だけでなく、
これらの**コラボレーションツールやメッセージングツール**に費やしている

71%

従業員の 71% が**これらのツールを使って機密データ、個人情報、企業の機密情報を共有**しているといいます



法規制対応／電子情報開示の準備はできていますか？

2020年は**GDPRの制裁金が41%増加**

(総額1億7000万ユーロ超)、金融業界の規制についても同様の増加傾向

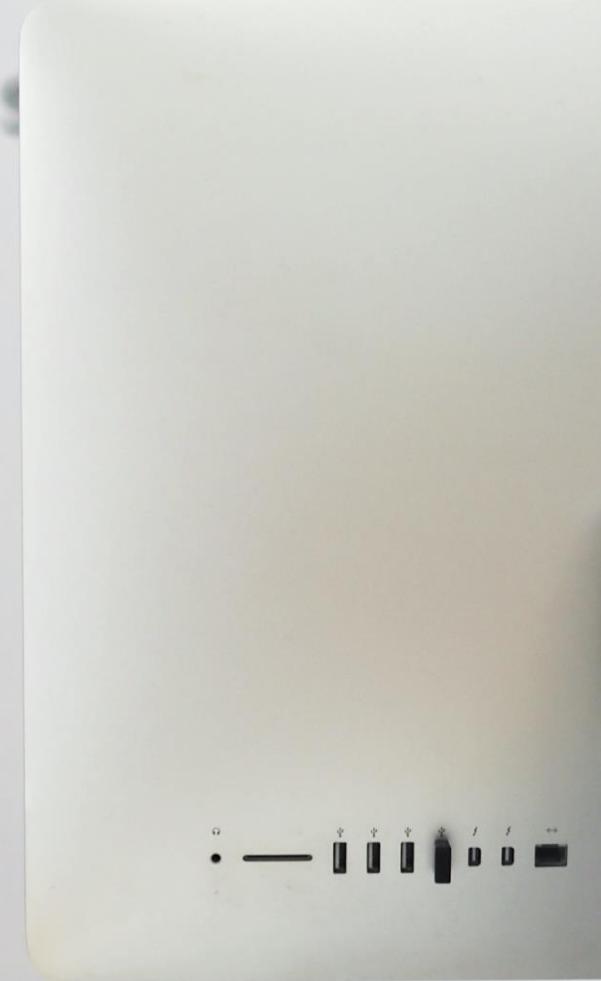
すべての情報を把握していないことによる罰金のリスクは、
ポストパンデミックの時代になっても高まる一方



自分には関係ない

??

No!!



これらの言葉をご存知でしょうか？

- ✓ 日本企業をターゲットとした**クラスアクション**
- ✓ **国際カルテル**や**海外腐敗行為防止法**の違反疑い
- ✓ **パテント・トロール**の特許侵害訴訟
- ✓ (米国に子会社がなくても) **製造物責任法**で訴訟
- ✓ **役員／従業員の引き抜き**
…など

これらは、普通の国内企業が
海外から訴訟される可能性がある事案

【参考】米国民事訴訟の要因／リスク①

- ・ 日本企業をターゲットとした**クラスアクション**（消費者集団訴訟）
 - ✓ 製造業の企業で損害賠償
- ・ **国際カルテル**（価格／生産量の協定）や、**海外腐敗行為防止法**（ワイロ禁止／会計の透明性）**の違反疑い**
 - ✓ 国内で30社以上の価格調整カルテルの疑いで米国司法省より訴追
- ・ **パテント・トロールの**（訴訟を起こす目的だけに特許を買い集める団体）**特許侵害訴訟**
 - ✓ 国内例は2000年以降、300件と言われている
 - ✓ 巻き込まれ系訴訟だと、特許侵害に関する訴訟が多い

【参考】米国民事訴訟の要因／リスク②

- 米国に最低限の関わり合いがあれば、**製造物責任法で、訴えられる可能性あり**
 - ✓ WEBサイトが閲覧可能／米国で購入可能
 - ✓ インターネットを使った電子商取引、情報発信は国境がない
 - ✓ 米国子会社に対する訴訟でも、日本本社が訴訟の舵を取る必要がある
- **役員／従業員の引き抜き**
 - ✓ ライバル企業から移籍してきた役員・従業員が、ライバル企業の機密情報を持ち出し、それを利用したとして損害賠償請求を受ける

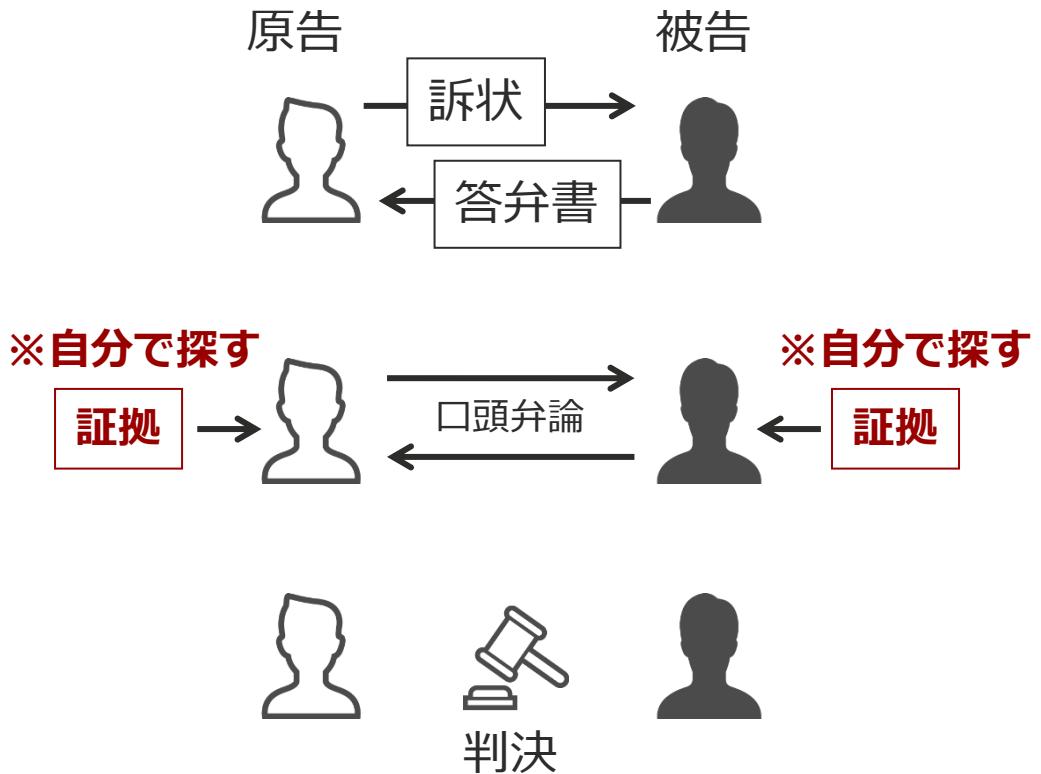
米国民事訴訟は、海外でビジネスを行う企業は避けて、とおることができないリスクです。
それを前提に米国民事訴訟と、そのリスクに向き合う必要があります。

- ・法規制対応／電子情報開示の準備の重要性
- ・**米国民事訴訟における eディスカバリ の位置づけ**
- ・EDRM（eディスカバリ参照モデル）の流れ
- ・eディスカバリ・ソリューション 選定ポイント
- ・ベリタスの電子情報開示支援ソリューション
- ・補足資料

【参考】国内民事訴訟の流れ

国内民事訴訟の流れ

- 訴えの提起
 - ✓ 訴状提出／答弁書提出
 - ✓ 事実／証拠の収集
- 口頭弁論期日
 - ✓ 証人尋問など証拠調べ
 - ✓ 主張の補充／整理
- 判決
 - ✓ 判決原本作成
 - ✓ 判決言い渡し



事実や証拠を集めるのは、当事者が自分の責任で行う
裁判所は当事者の主張を聞いて、中立的な立場で判断

… 弁論主義
… 当事者主義

米国民事訴訟の流れ

米国民事訴訟の流れ

- 訴えの提起
 - ✓ 訴状提出／答弁書提出
- プリトライアル
 - ✓ **ディスカバリ（証拠開示手続）**
 - ✓ 各種申し立て
 - ✓ 簡易判決など
- トライアル（公判）
 - ✓ 陪審選定
 - ✓ 証人尋問
- 判決
 - ✓ 陪審評議と評決
 - ✓ 判決言い渡し

原告 被告



証拠出せ 証拠出せ



証拠を要求し、相手に出させる

(日本どころではない) 当事者主義
90%以上がプリトライアルで和解

ディスカバリ（証拠開示手続）とは

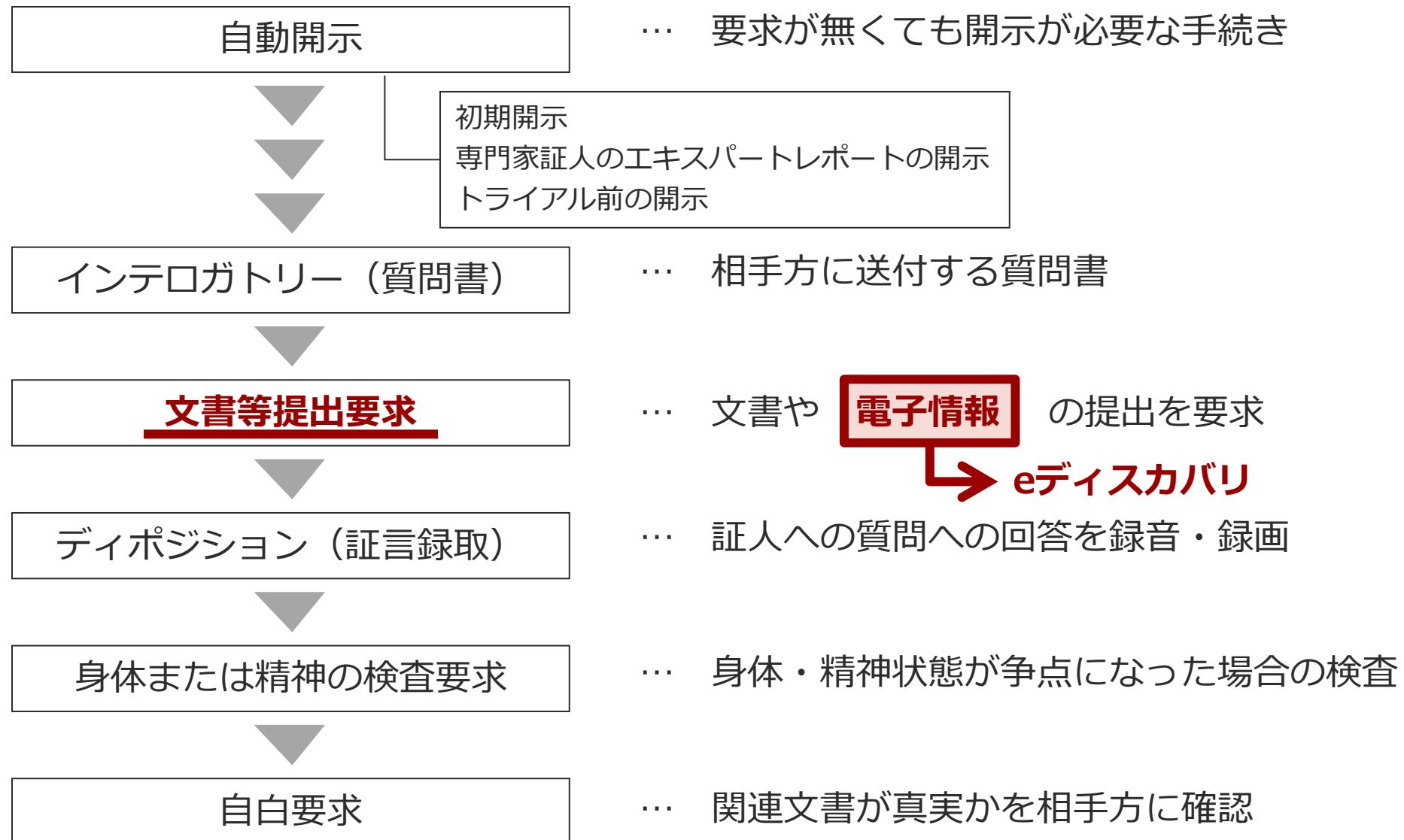
■ディスカバリとは
公判（トライアル）前に争点に関する情報を、
相手方の要求に基づき情報開示する手続き。

「Discovery : 発見」の意味のとおり、証拠を「**出させる・見つけにいく**」の意味合いが強い。
ディスカバリを要求する側のイニシアチブが強い。
ディスカバリにより、手の内が分かり、和解になりやすい。（90%以上）

米国民事訴訟手続きの中で、最も時間とコストを要する。



ディスカバリの流れ



文書等提出要求／eディスカバリとは

■文書等提出要求

争点に関連した情報が書かれている可能性のある

文書／電子情報の提出を相手に求める事。期日以内に提出する必要がある。

■eディスカバリ

- ・ **費用は提出側**が原則が持つ、5千万～3億円になることも
- ・ 開示対象
 - ✓ **コミュニケーションに関する情報**
 - ✓ ログ、資料の修正履歴
 - ✓ 秘匿特権※1、ワークプロダクト※2が適用できれば開示不要

※1 「依頼者と弁護士の間の法的助言を得るためになされた、秘密のコミュニケーション」であれば、相手方に開示しなくて良い

※2 「訴訟準備のために作成された文書等」は、相手方に対する開示の対象から除外される



メール



ドキュメント
(ファイルサーバ)



社内ポータル

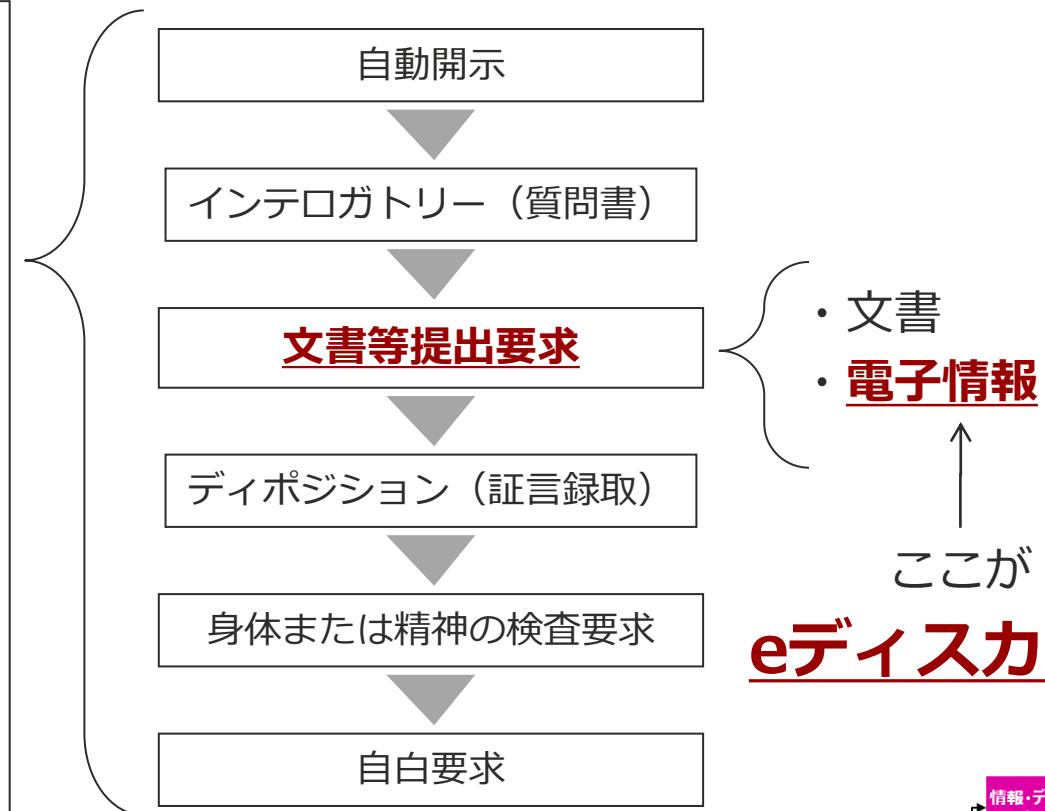


テキストメッセージ

eディスカバリの位置づけ

米国訴訟の流れ

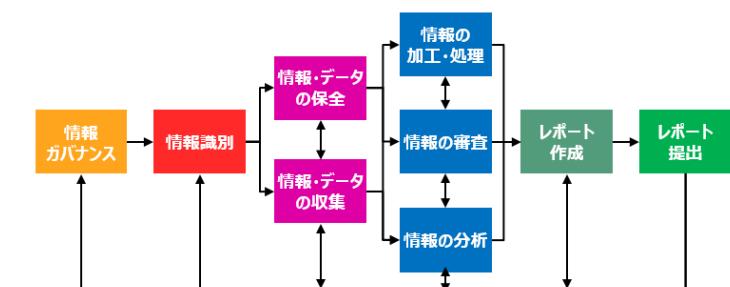
- ・訴えの提起
 - ✓ 訴状提出／答弁書提出
- ・プリトライアル
 - ✓ **ディスカバリ（証拠開示手続）**
 - ✓ 各種申し立て
 - ✓ 簡易判決など
- ・トライアル
 - ✓ 陪審選定
 - ✓ 証人尋問
- ・判決
 - ✓ 陪審評議と評決
 - ✓ 判決言い渡し



文書
・**電子情報**

ここが

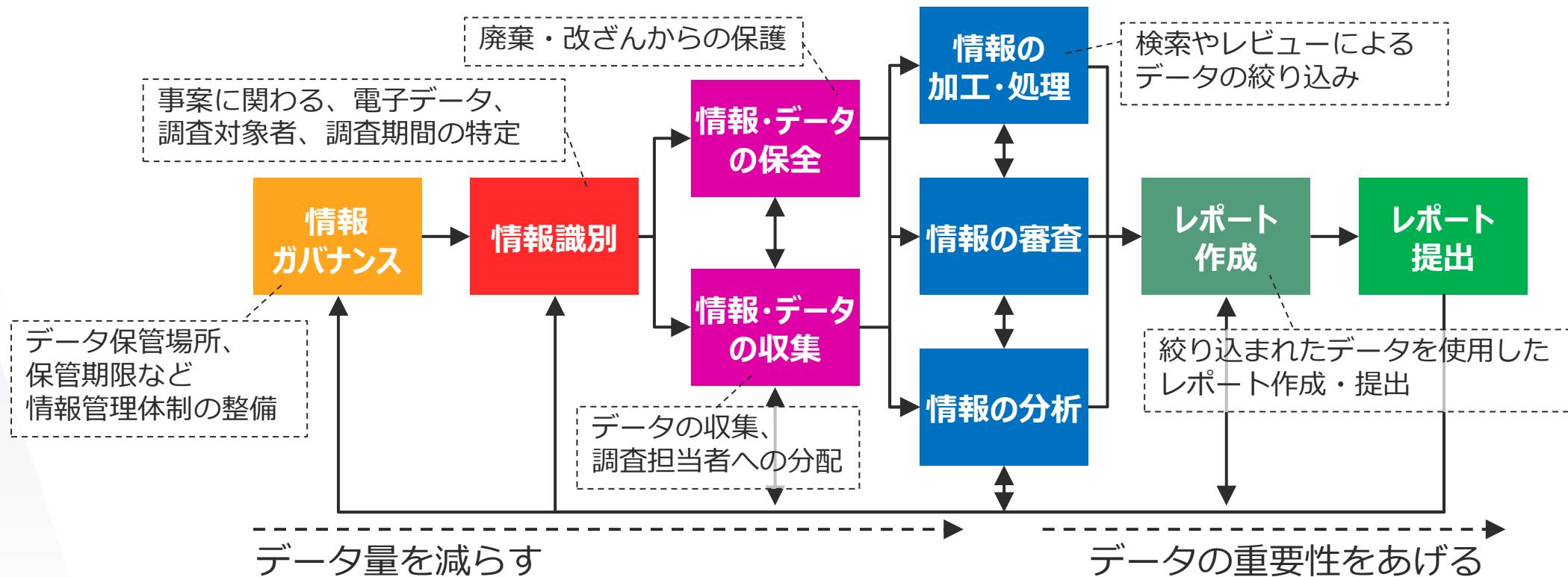
eディスカバリ



- ・法規制対応／電子情報開示の準備の重要性
- ・米国民事訴訟における eディスカバリ の位置づけ
- ・**EDRM（eディスカバリ参照モデル）の流れ**
- ・eディスカバリ・ソリューション 選定ポイント
- ・ベリタスの電子情報開示支援ソリューション
- ・補足資料

EDRM (eDiscovery Reference Model)

EDRMは、**eディスカバリのワークフロー**として、世界標準の作業指標として、法律事務所、サービスベンダーなどで採用されている。本フローは、**コンプライアンス社内調査にも活用**されている。



情報ガバナンス

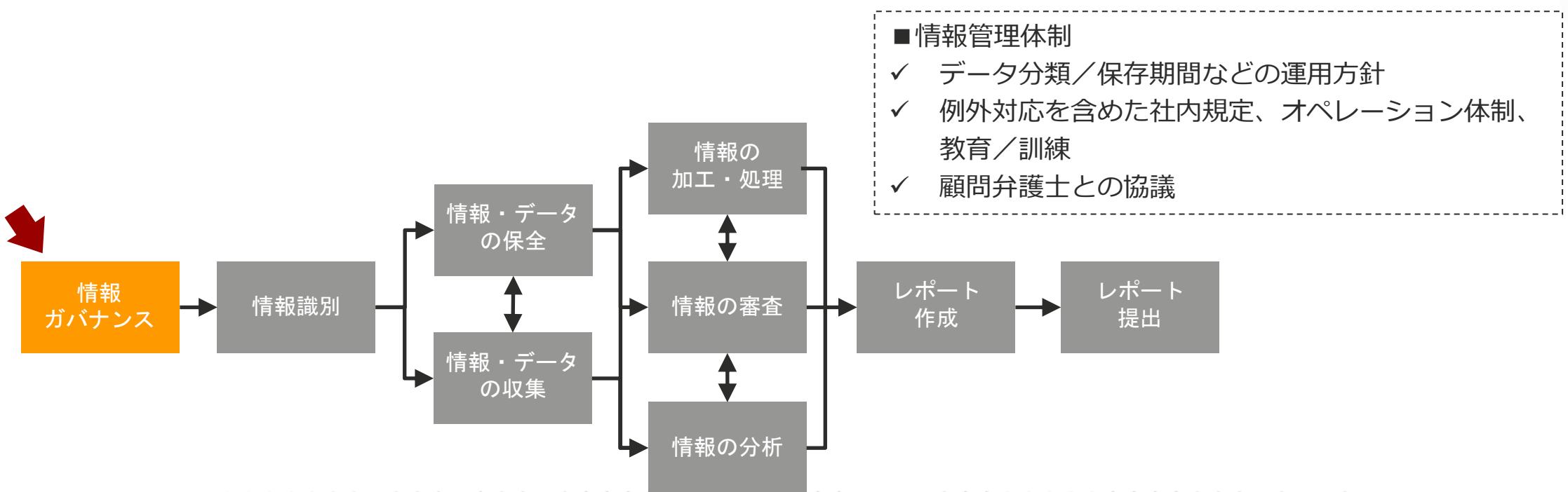
普段から文書管理・情報管理体制を整備することで、

eディスカバリの実作業を迅速に開始できる。

EDRMのフローの実作業は、次の「情報識別」から始まる。

データの保存場所が限定され統一された状態から関連情報を収集する方が

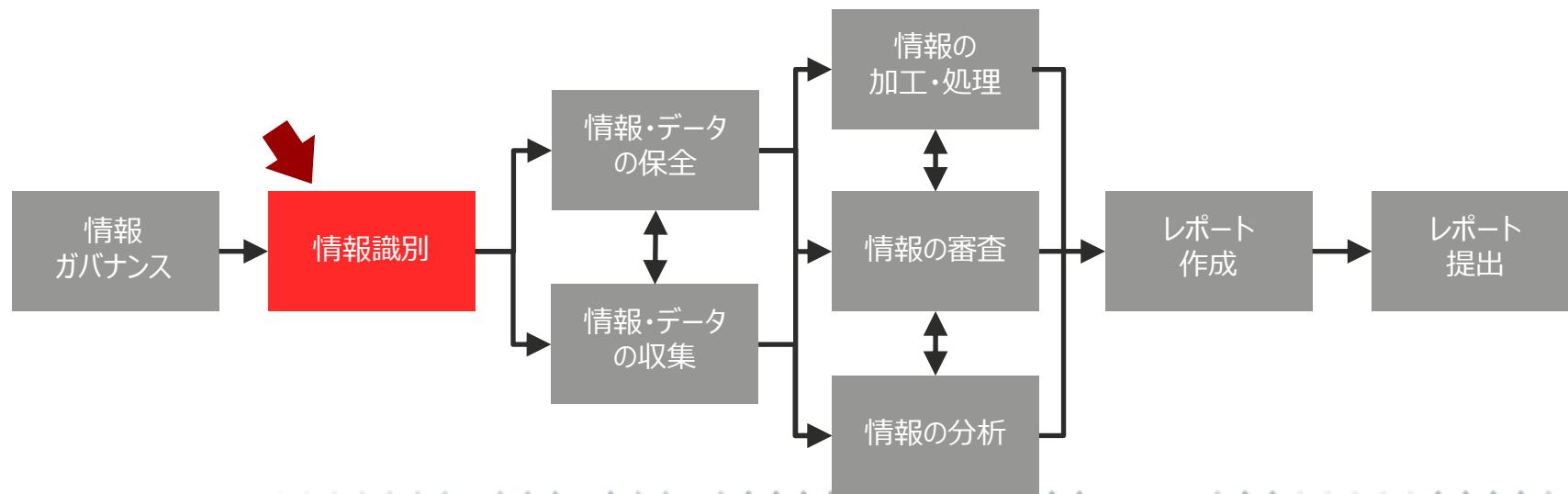
効率的であり、リスク及びコストの低減につながる。



情報識別

法務担当、弁護士とともに、関連情報となる可能性がある全ての
電子データ※1、その所有者／調査対象者※2、保存場所、調査期間を決定。
「保全、収集」の技術的手法やスケジュールの計画。
通常業務へ支障を最小化、データ破壊が無いようにします。

※1 ESI(Electronically Stored Information)と呼ばれる
※2 カストディアンと呼ばれる



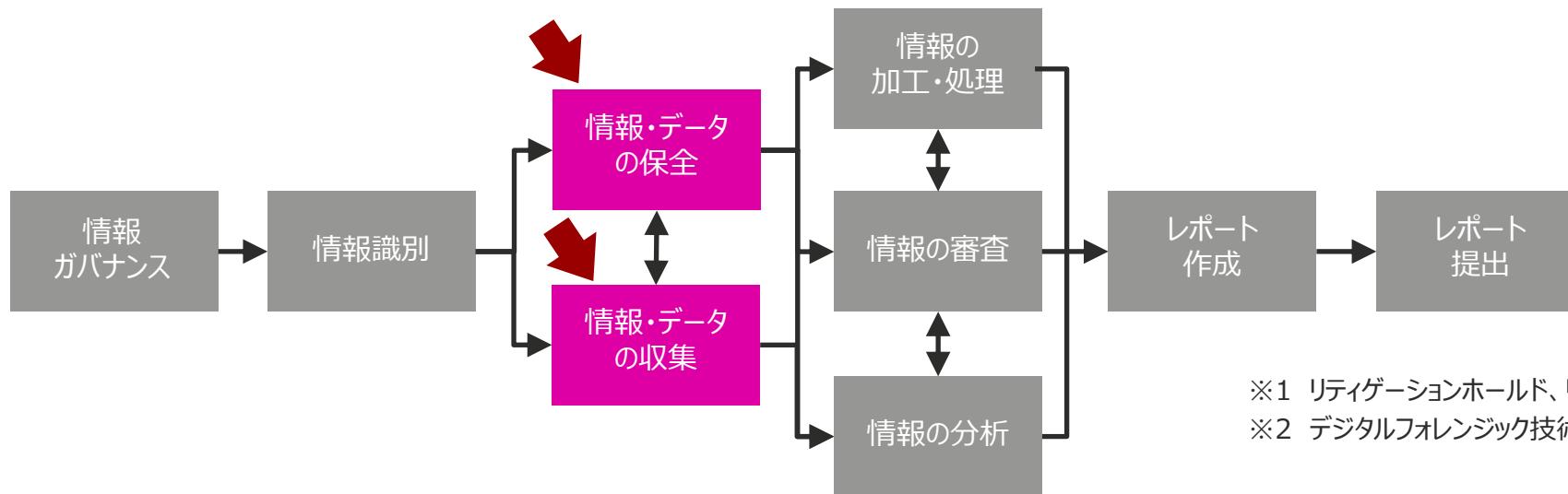
情報・データの保全 / 情報・データの収集

● 情報・データの保全

訴訟されたと判断された時点で、関係するデータを**破棄や改ざんから保護**し、削除／破棄／変更の通常の**ライフサイクルプロセスを停止**※1

● 情報・データの収集

あらゆるデバイスから収集。メタ情報／ログ情報も含む。削除されたデータの復元も必要。
改ざんの疑いを受けないように※2、**データのコピー／移動作業は専門業者に依頼**するべき。
EDRM対応の**アーカイブが整備されている場合は、すでに集まっているので収集不要！**

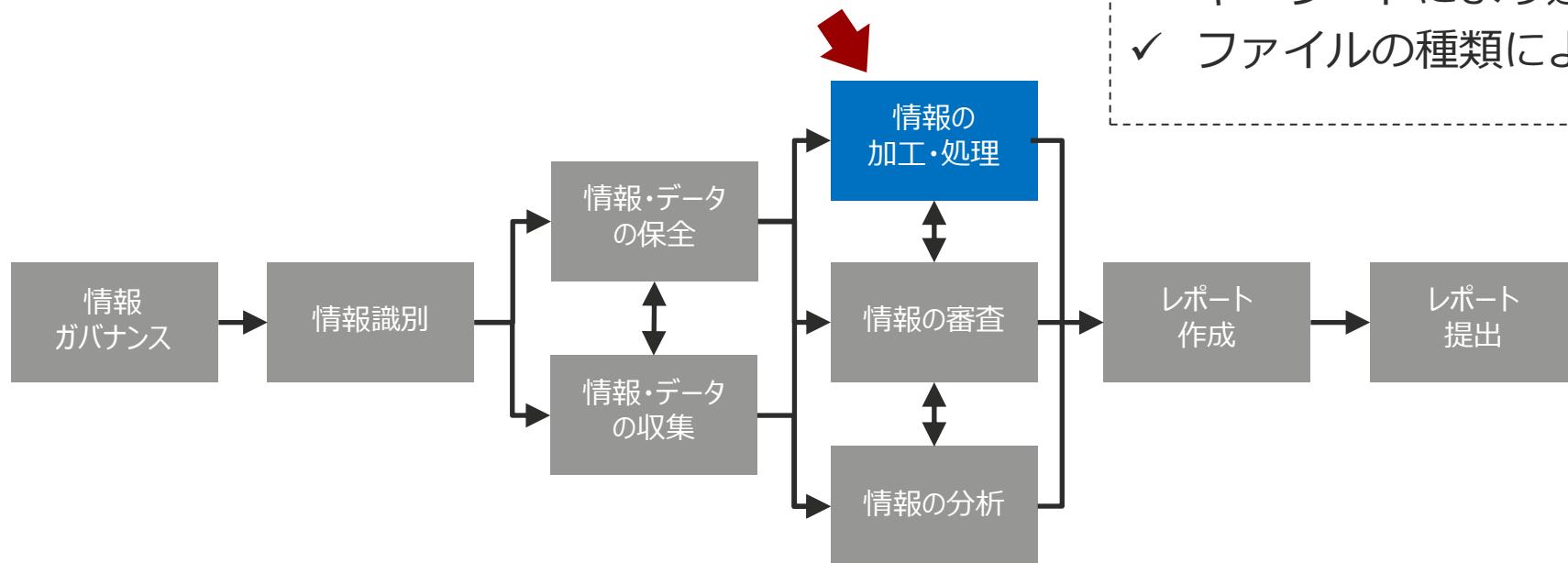


※1 リティゲーションホールド、リーガルホールド、訴訟ホールドと呼ばれる

※2 デジタルフォレンジック技術でハッシュ値が同じことを証明する…など

情報の加工・処理

明らかに関係のないデータを除外し、**機械的にデータ量を少なく**します。
データ量を減らすことで、後の工程や翻訳の時間と費用を削減できます。



■ 減らす技術

- ✓ 同一メールなどの削除（重複排除）
- ✓ キーワードにより選別（カリング）
- ✓ ファイルの種類により選別

情報の審査（レビュー）／情報の分析

法務担当や弁護士がレビューを行い、訴訟に合わせて適切な資料を選択します。

膨大なデータの中から、証拠となる資料のみに限定することで、

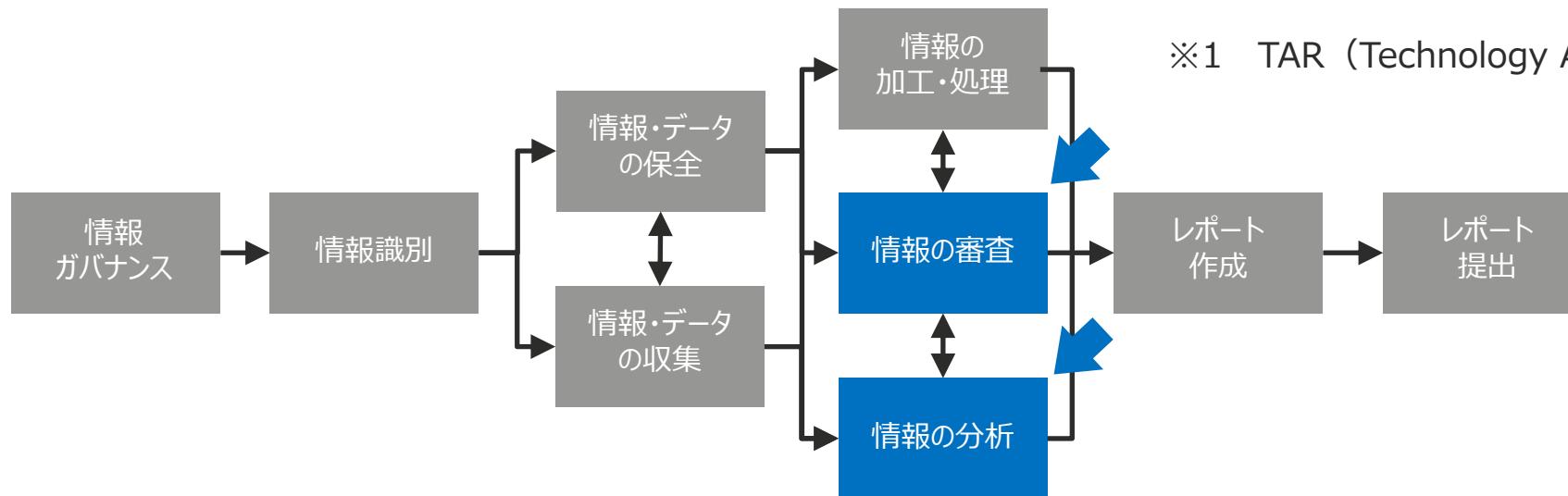
情報漏えいを防ぎ、人件費／翻訳費などのコストを削減できます。

秘匿特権のある文書の仕分けを行い、

文脈と内容、関与した人物、議論内容などから評価し、

開示データを吟味する必要があります。

自動化・AIを用いて効率よくレビューを行うソフトウェア※1も実用段階に来ています。



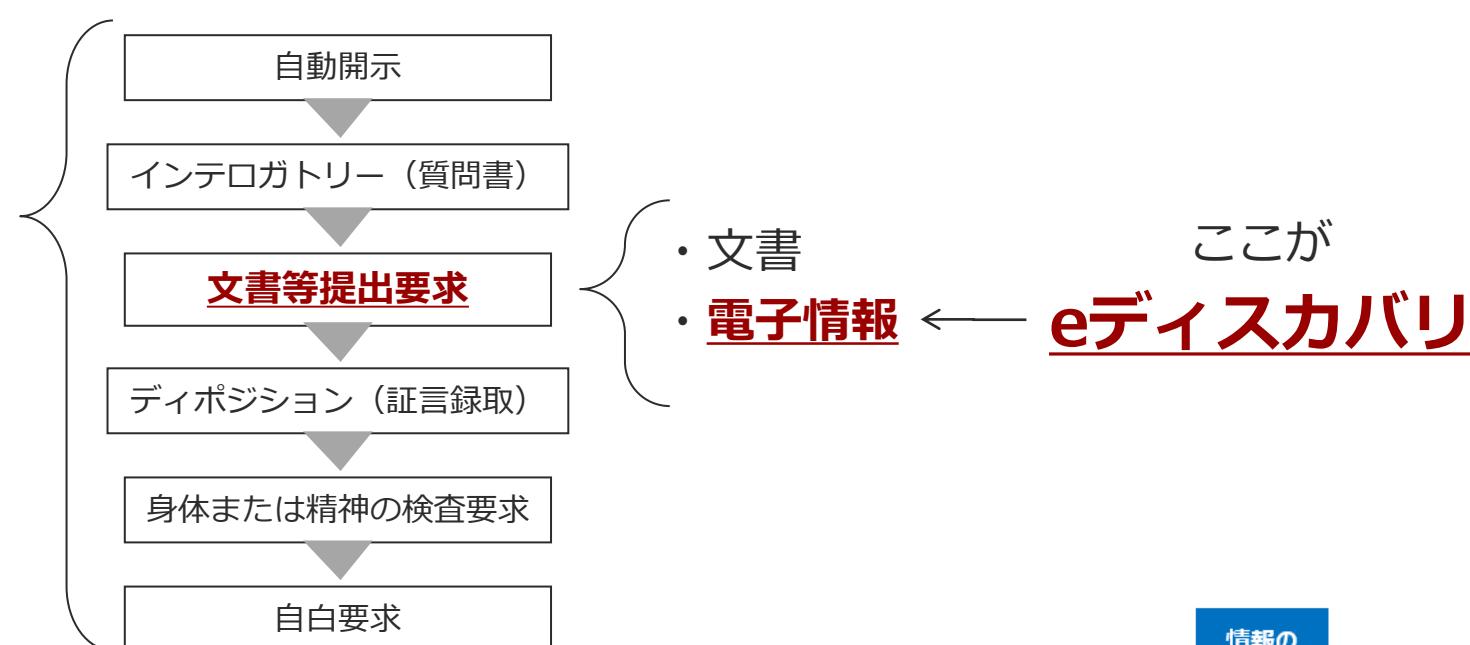
※1 TAR (Technology Assisted Review) と呼ばれる

- ・法規制対応／電子情報開示の準備の重要性
- ・米国民事訴訟における eディスカバリ の位置づけ
- ・EDRM（eディスカバリ参照モデル）の流れ
- ・**eディスカバリ・ソリューション 選定ポイント**
- ・ベリタスの電子情報開示支援ソリューション
- ・補足資料

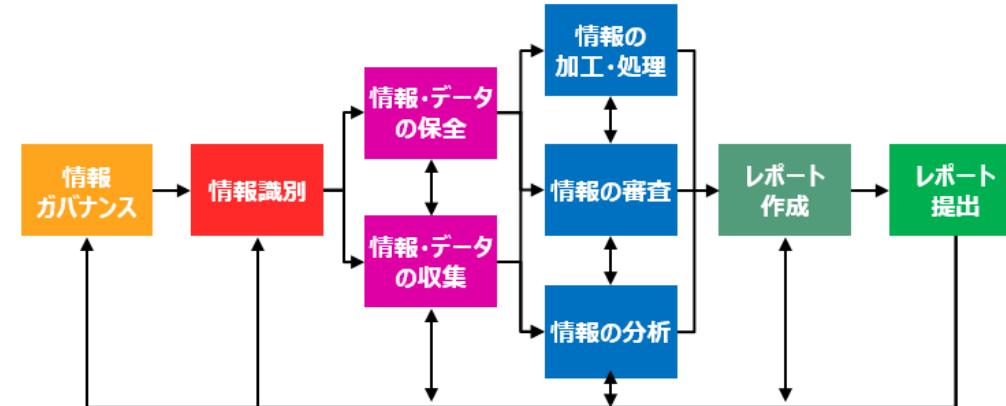
【再掲】eディスカバリの位置づけ

米国訴訟の流れ

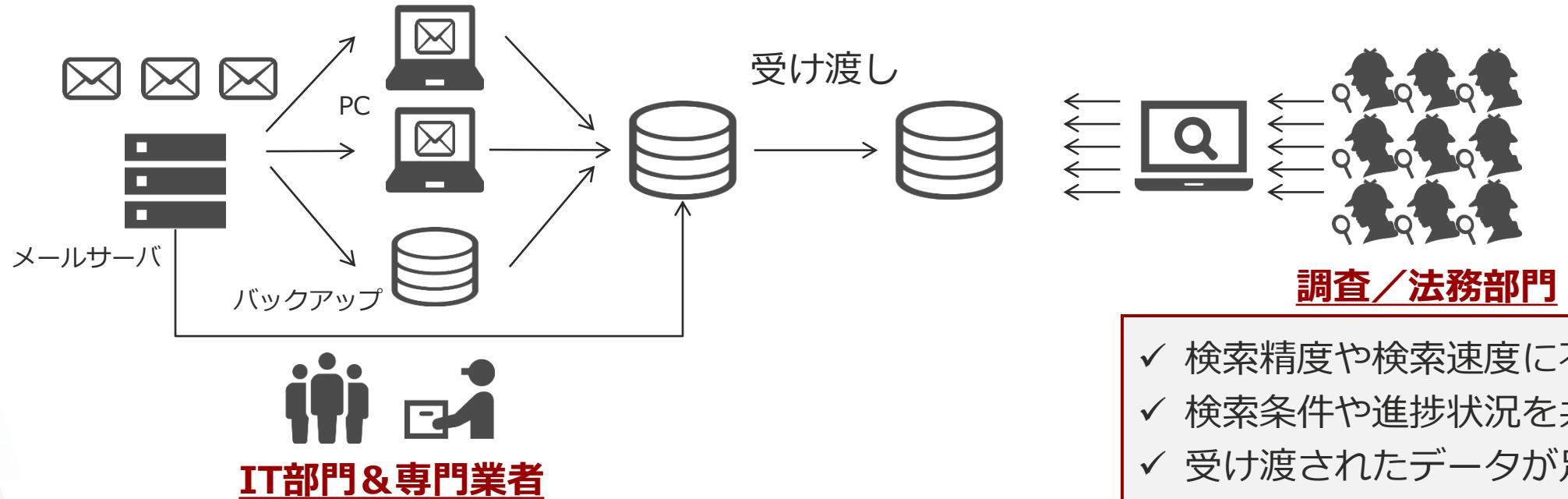
- 訴えの提起
 - ✓ 訴状提出／答弁書提出
- プリトライアル
 - ✓ **ディスカバリ（証拠開示手続）**
 - ✓ 各種申し立て
 - ✓ 簡易判決など
- トライアル
 - ✓ 陪審選定
 - ✓ 証人尋問
- 判決
 - ✓ 陪審評議と評決
 - ✓ 判決言い渡し



eディスカバリの
ワークフロー
EDRM



EDRMを手動とポイントソリューションで実施すると…



- ✓ 個々のPCやサーバからデータを手動収集
- ✓ 改ざんのを疑われる可能性
- ✓ 見てはいけないデータを見てしまうリスク



経営部門

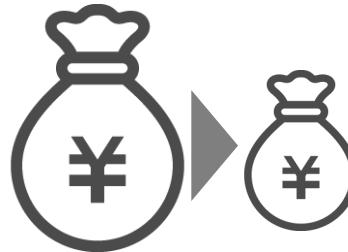
- ✓ 検索精度や検索速度に不満
- ✓ 検索条件や進捗状況を共有しづらい
- ✓ 受け渡されたデータが足りず再度依頼

- ✓ 長期間／コスト大
- ✓ 企業秘密漏えいのリスク
- ✓ 企業価値低下／信用失墜のリスク

ディスカバリソリューション導入の目的



時間短縮

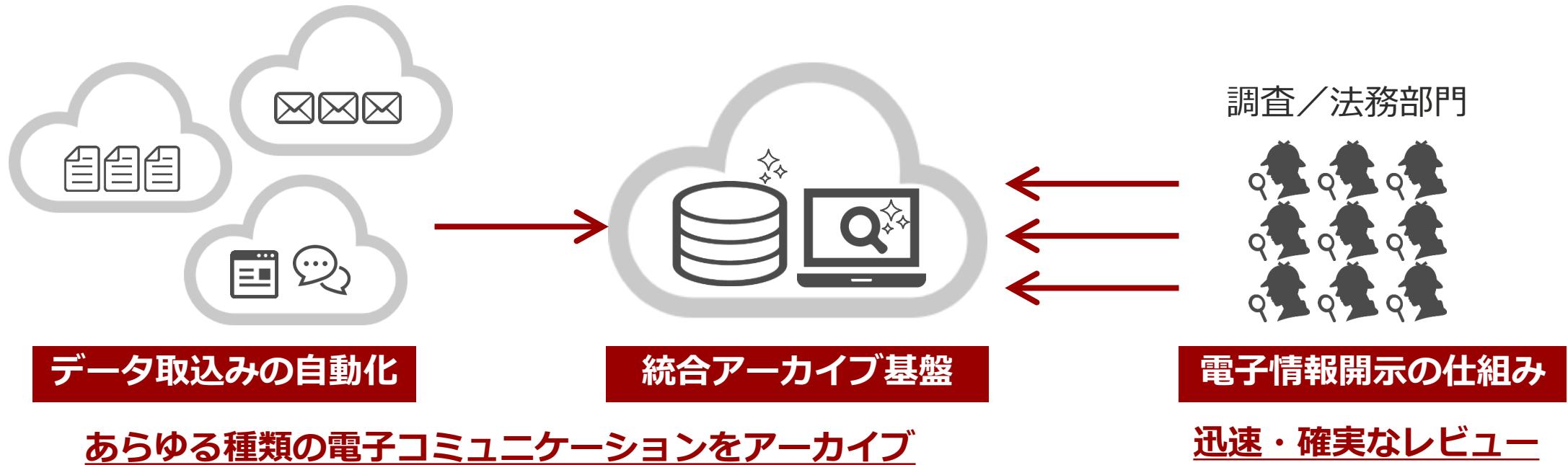


コスト削減



リスク低減
(企業秘密漏洩)

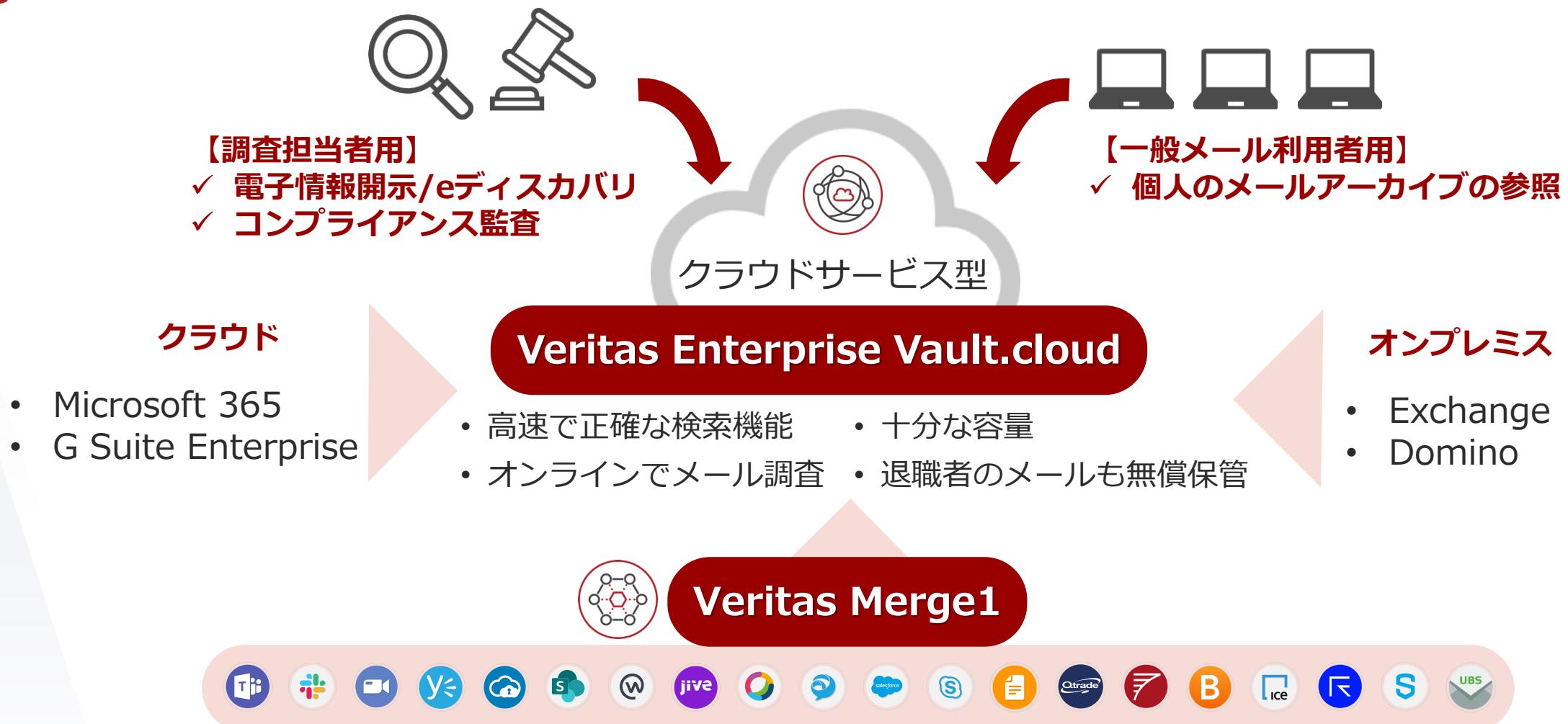
eディスカバリー・ソリューション選定ポイントとは？



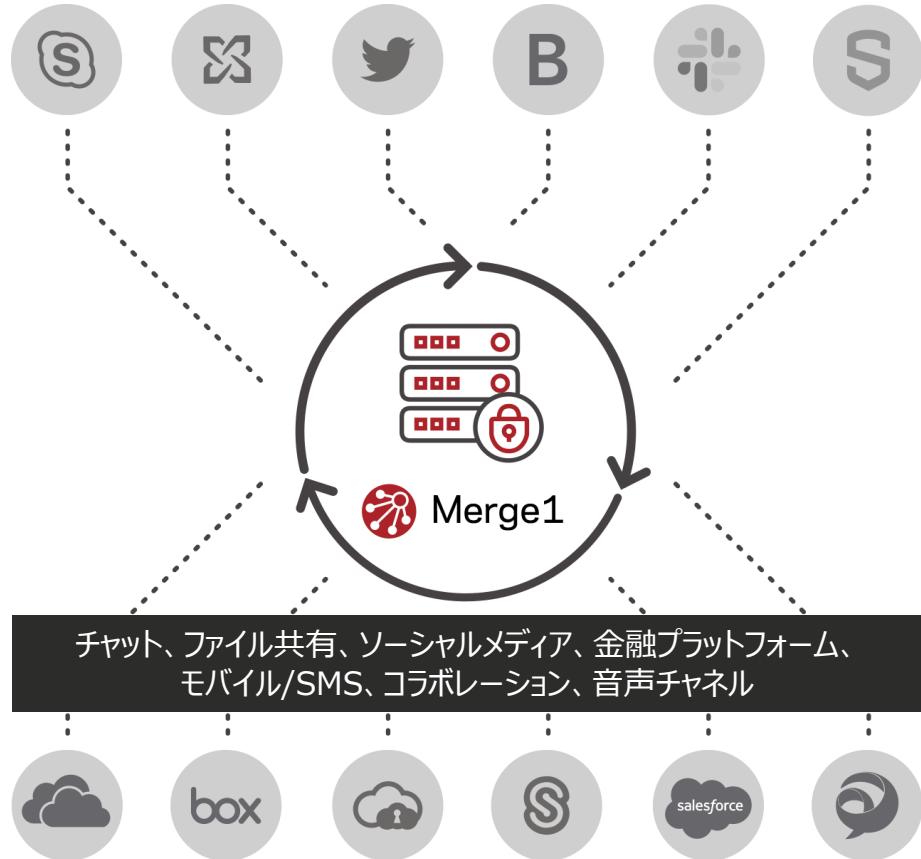
SaaSへの移行のタイミングで、ビジネスの俊敏性／ユーザ利便性と
情報ガバナンスを両立！！eディスカバリー対策もできる！！

- ・法規制対応／電子情報開示の準備の重要性
- ・米国民事訴訟における eディスカバリ の位置づけ
- ・EDRM（eディスカバリ参照モデル）の流れ
- ・eディスカバリ・ソリューション 選定ポイント
- ・**ベリタスの電子情報開示支援ソリューション**
- ・補足資料

クラウド型アーカイブ & 電子情報開示支援サービス



あらゆるコミュニケーションを Merge1 にてキャプチャ



Veritas Merge1™ は、
120種類以上のコミュニケーションソースから
直接**キャプチャ**するための最先端のソリューション

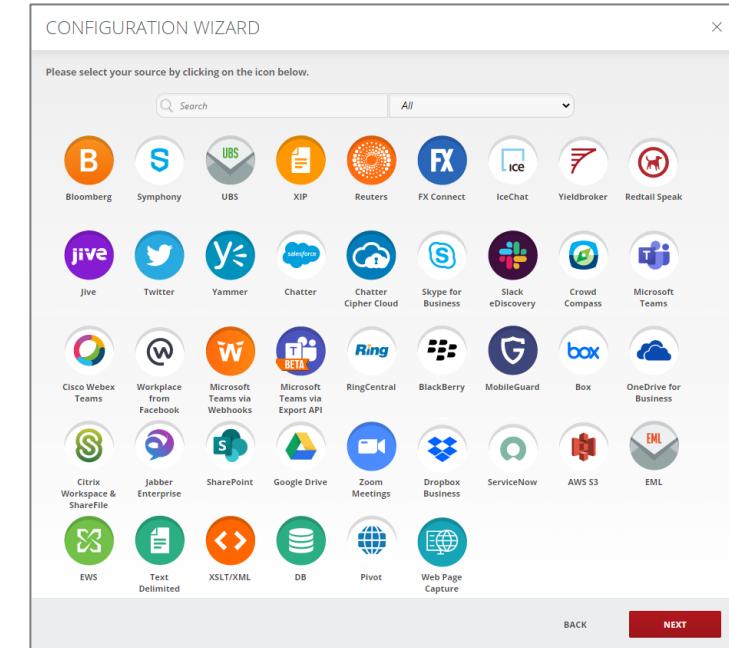
- ✓ Merge1 は、市場で **15 年以上の実績**を持つ、信頼できるコンプライアンスソリューション
- ✓ 120以上の異なるコンテンツソースをサポート
- ✓ **Microsoft、Slack、Zoom など、多くのコンテンツソースから推奨・支持**
- ✓ オンプレミスやクラウドなど、既存のインフラで動作
- ✓ Veritas EV/EV.cloud、eDiscovery Platformに対応

Merge1 対応アプリケーション

AMAZON S3
BLACKBERRY
BLOOMBERG
BOX
CHATTER CIPHER CLOUD
CHATTER
CISCO WEBEX TEAMS
CITRIX WORKSPACE & SHAREFILE
CROWD COMPASS
DB
DROPBOX BUSINESS
EML
EWS
FX CONNECT
GOOGLE DRIVE
ICECHAT
JABBER ENTERPRISE
JIVE
MICROSOFT TEAMS
MICROSOFT TEAMS VIA EXPORT API
(BETA)
MICROSOFT TEAMS VIA WEBHOOKS
MOBILEGUARD
ONEDRIVE FOR BUSINESS

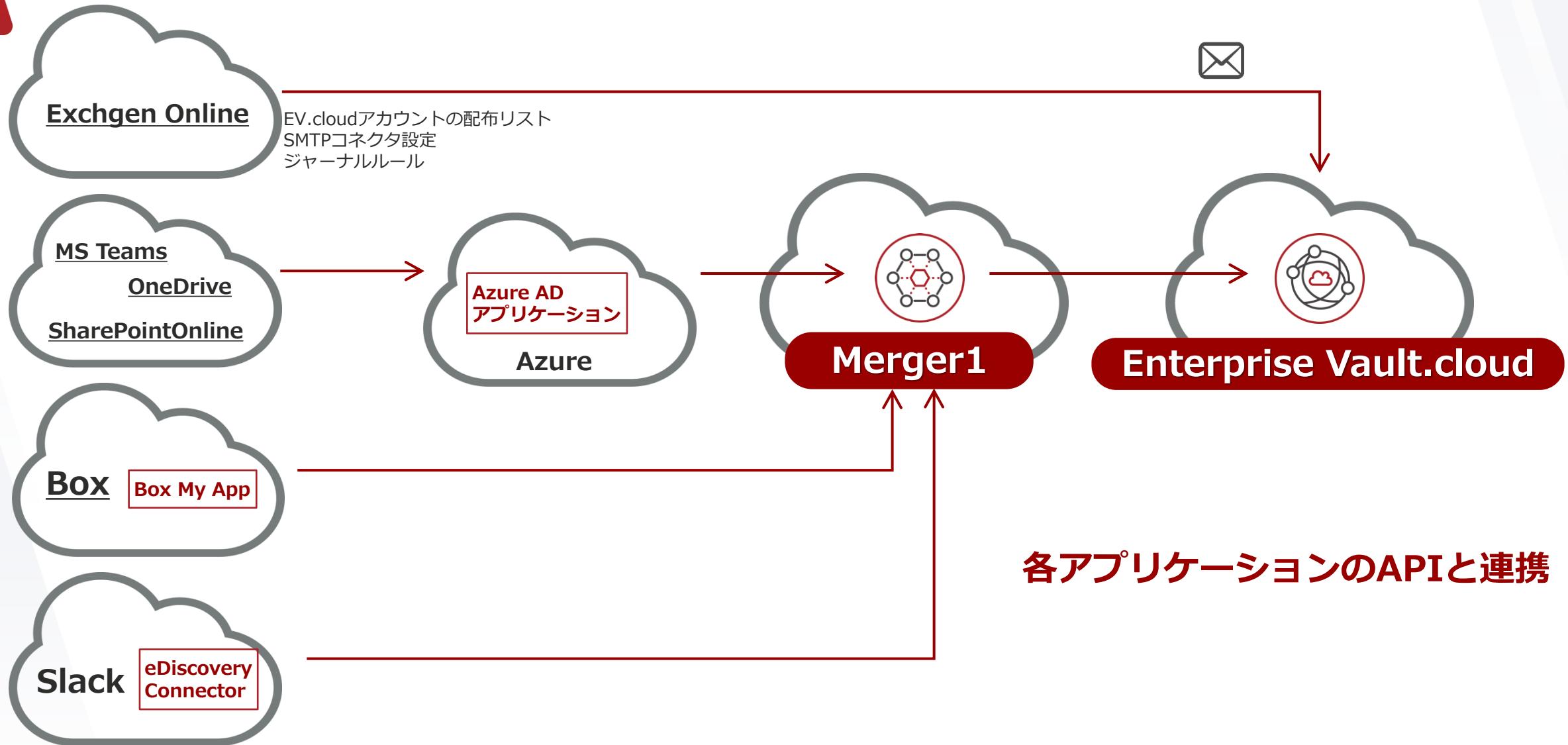
PIVOT
REDTAIL SPEAK
REUTERS
RINGCENTRAL
SERVICENOW
SHAREPOINT
SKYPE FOR BUSINESS
SLACK EDISCOVERY
SYMPHONY
TEXT-DELIMITED
TWITTER
UBS
WEB PAGE CAPTURE
WORKPLACE FROM FACEBOOK
XIP
XSLT/XML
YAMMER
YIELDBROKER
YOUTUBE (BETA)
ZOOM MEETINGS
MONITORED USERS
FILTERS
TARGETS
SETTINGS

120種類以上の
アプリケーションに対応
約1ヶ月ごとのアップグレードで
対応アプリケーションを拡大中！！



※ Version 6.21.1019.171時点

Merge1はAPI連携にて、コミュニケーションをキャプチャ



Merge1 実績

多数の金融のお客様を含む、多くのお客様でご利用いただいております。

- ✓ 金融
- ✓ 工業
- ✓ スポーツ＆エンターテイメント
- ✓ 医薬品
- ✓ 商業
- ✓ 教育
- ✓ ソフトウェア
- ✓ ヘルスケア
- ✓ 政府

“

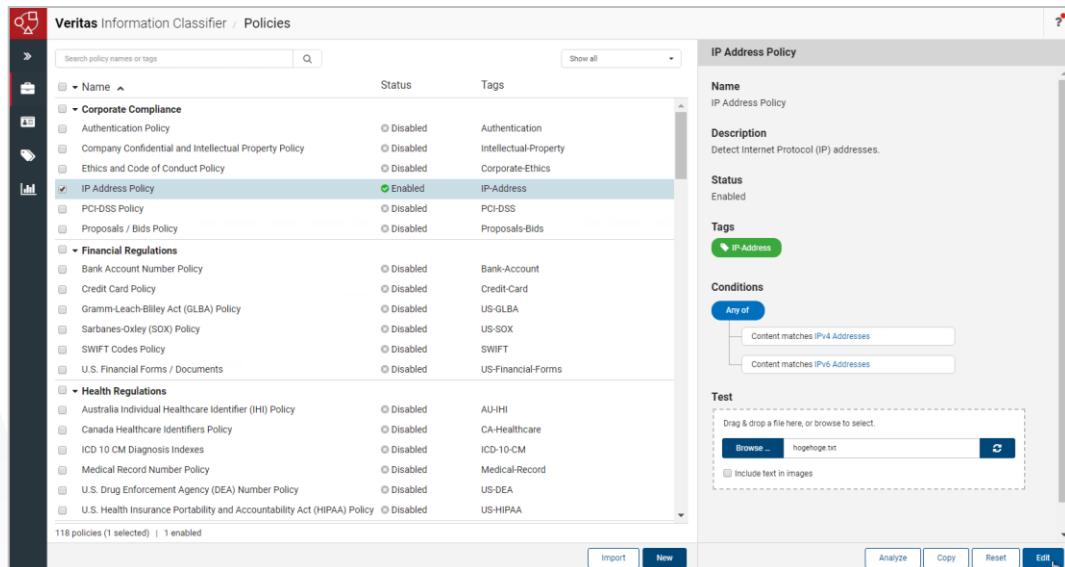
Veritas Merge1 は
まさにこの分野における先駆的な製品です。
私たちが抱える多くの複雑な問題に対応する
ソリューションを簡単に構築できます。
それに加えて、サポートチームも一流です

Bo He 氏
KKR & Co. Inc. 社 副社長

Veritas Information Classifier (VIC) 分類エンジン

データの中身をスキャンし、タグ付け、可視化する技術

この分類エンジンは、日々アーカイブされるデータをコンテンツの中身に対して、ポリシーを元に分類し、ディスクバリ対応の迅速化を支援します。



- ✓ **900以上のパターン**
(生年月日、社会保障番号、クレジットカード番号、診療録など)
- ✓ **140以上のポリシー**
(GDPR, CCPA, HIPAA, Sarbanes-Oxleyなど、世界各国の規制に対応)
- ✓ **新しいパターンやポリシーを継続的に追加**
(ランサムウェア検出、COVID-19関連など)
- ✓ **パターン、ポリシーのカスタマイズも可能**

EV.cloud と他社ソリューションとの機能比較

項目	Veritas Enterprise Vault .cloud	他社ソリューション
調査対象	○ ジャーナルメール（受信および送信電子メールの全記録）	▲ 各個人のメールボックス、共有メールボックス
メール以外の対応	○ Merge1との併用により、 120種類以上のコミュニケーションツールに対応	✗ メールのみ
検索速度・精度	○ 高速&高い精度の検索	▲ 微妙な検索速度・精度であることが多い
検索結果の表示	○ 重複なし（ジャーナルメールは常に1つの原本） 検索された 全メールの中身を確認できる	▲ 別メールボックスの同じメールが表示 プレビューは一部のみ、全文を見るにはエクスポートが必要
電子情報開示	○ EDRMに準拠 (1) 電子情報開示プロセスに沿ったオンライン利用 (2) 複数のレビュワーが調査対象のメールを審査 (3) タグ付け、マーク、レビューステータス、コメント (4) 選定したメールを絞り込んで提出	▲ 検索機能のみでエクスポートが必須 (このレベルのサービスが大半) 検索による絞り込みと審査結果はタグ付けのみ
個人情報のタグ付け	○ Veritas Information Classifier (VIC) 分類エンジン クレジットカードやパスポート番号などの個人識別情報を認識するパターンが710以上、規制対応のポリシーを110以上搭載	✗ なし
保持期間	○ アーカイブ保持期間を指定可、無期限も可(費用追加無し)	○ アーカイブ保持期間を指定可 ジャーナル保持サービスがあっても別途有償
訴訟ホールド	○ ケース登録時に指定	○ ケース登録時に指定
データ提出	○ エクスポート機能	○ エクスポート機能
退職者のメールの扱い	○ 退職者の過去メールはライセンス対象外 継続してデータは保持される	▲ 調査対象者として選択するためには、 メールボックスを有効に変更する
過去メールのインポート	○ PST, NSF, EML, MSG形式の取り込み	○ 主に PST形式のメールインポート
監査・調査する利用者	○ クラウドとは完全分離したレビュー専用アカウントが用意可	▲ 当クラウドサービスの利用者であること

Enterprise Vault.cloudによる 高速なデータ検索

メール件数	総容量	Enterprise Vault.cloud	他社ソリューション
約1,000通	150MB	1~2秒	約5倍 4~10秒
約11,000通	約1.1GB	2~3秒	約20倍 45~50秒

※検証に基づくものであり、保証はいたしかねます。

Enterprise Vault.cloudでは検索用のインデックスを作成することで、高速な検索が可能。短期間で目的のデータにたどり着くことができるため、情報開示の期日を順守しながら、不要な情報まで開示してしまうリスクを削減できます。

EV.cloudは ユーザ、IT、法務、経営部門 の各部門にメリット

ユーザ部門

十分な容量*、期間無制限の メールボックスを実現



今までではメールボックス容量に制限があり、大事なメールも定期的に削除していました。

IT部門

クラウドサービスのため基盤の管理不要、 有事の際もデータ収集不要

これまで、アーカイブ基盤のバージョンアップ、リプレースが悩みでした。



有事の際もデータの移動・収集が不要なので、改ざんを疑われるリスクがなくなりました。

法務部門

高速な訴訟／コンプライアンス調査 タスク分担／進捗共有が容易



タスク分担、ラベル付などGUIで簡単に。エンターを押してランチに行こうとしたら、もう検索が終わっていたんです。

経営部門

調査コスト削減 企業価値低下／信用失墜のリスク削減



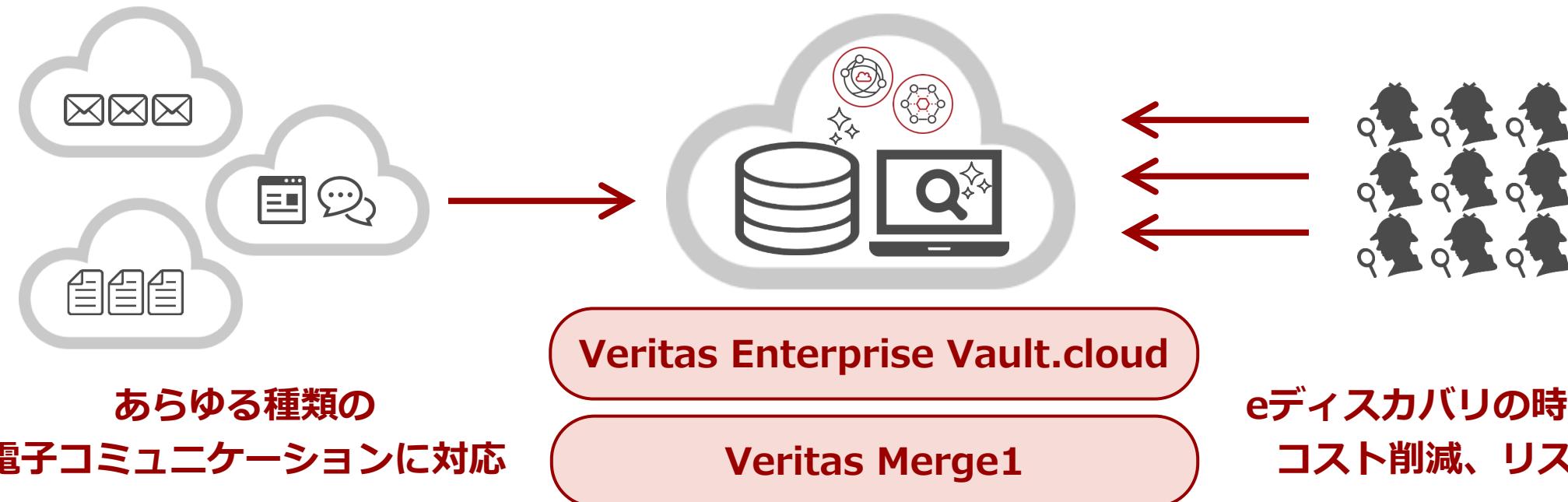
eディスカバリは数億円の費用がかかることも。Enterprise Vault.cloudで、グローバル化のリスクに先手を打つことができました。

【まとめ】EV.cloud と Merge1 によるコンプライアンス対応

データ取込みの自動化

統合アーカイブ基盤

電子情報開示の仕組み



DX時代の多様化する電子コミュニケーションへのコンプライアンス対応を
Enterprise Vault.cloud と Merge1 で実現してください！！

- ・法規制対応／電子情報開示の準備の重要性
- ・米国民事訴訟における eディスカバリ の位置づけ
- ・EDRM（eディスカバリ参照モデル）の流れ
- ・eディスカバリ・ソリューション 選定ポイント
- ・ベリタスの電子情報開示支援ソリューション
- ・補足資料**

【参考】過去のウェビナーのアーカイブ

下記にて、過去のウェビナーのアーカイブを公開しております。

<https://www.veritas-solution.com/ev-vibe-2021-0906>

DX時代の多様化する電子コミュニケーションへのコンプライアンス対応

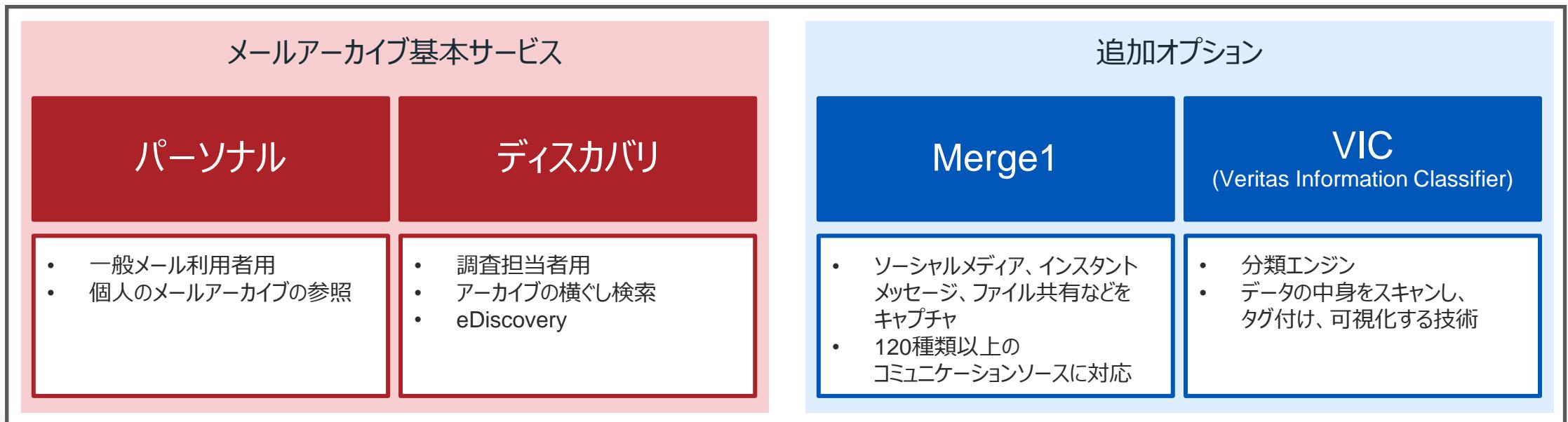


The screenshot shows a video player interface for a Veritas Vibe webinar. On the left, there is a circular profile picture of a man (木島 亮) and his name below it. To the right of the profile picture, the text reads "2021年9月9日より公開" (Published from September 9, 2021). Below this, the title of the webinar is displayed: "DX時代の多様化する電子コミュニケーションへのコンプライアンス対応". Further down, the speaker's name "木島 亮" is listed again, along with their role: "クラウドソリューション推進担当" and "テクニカルセールス". At the bottom of the player, there is a link "講演資料をダウンロード" (Download presentation materials).

1. 法規制対応／電子情報開示の準備の重要性
2. 米国民事訴訟における eディスクバリ の位置づけ
3. EDRM (eディスクバリ参照モデル) の流れ
4. eディスクバリ・ソリューション 選定ポイント
5. ベリタスの電子情報開示支援ソリューション

ライセンス体系

- ・課金対象：アーカイブ対象のアクティブなメールボックス数（ユーザ数）
 - 退職等で新規アーカイブを停止する場合は、課金対象から外れ、これまでのアーカイブは継続保持されます。



※「パーソナル + ディスカバリ」のライセンスもあり

EV.cloud eディスカバリ 画面サンプル①

事案用ワークスペース(Case)を作成し、
調査対象者(Custodians)と調査担当者(Reviewers)を設定します。
調査担当者には、各種権限を付与することができます。

The screenshot shows the Veritas Advanced eDiscovery interface. On the left, the navigation bar includes E-Discovery, Investigations, Administration, Alerts, and Dashboard. The main area shows a 'Edit Case' dialog for '2021_case01'. It displays case details like status (Active), number of custodians (4), and emails (33404). A red arrow points from the 'Custodians for Case' section to the text '調査対象者' (Investigation Subjects). Another red arrow points from the 'Reviewers for Case' section to the text '調査担当者' (Investigation Managers). A red dashed box highlights the 'Case Information Summary' and 'Custodian Information' tables. The 'Case Information Summary' table shows 4 reviewers, 4 custodians, 33404 emails, and 33404 emails on legal hold. The 'Custodian Information' table lists four custodians with email counts: 29010, 2907, 1309, and 178. A red dashed box also highlights the 'Reviewer Summary' table, which lists four reviewees with their assigned counts: 258, 258, 258, and 251.

Case Information Summary

# of reviewers	4
# of Custodians	4
# of e-mails	33404
# of e-mails on legal hold	33404

Custodian Information

Sr. No.	Custodian Name	# of e-mails
1	[Redacted]	29010
2	[Redacted]	2907
3	[Redacted]	1309
4	[Redacted]	178

Reviewer Summary

Sr. No.	Reviewer Name	Assigned	Escalate	Irrelevant	Not reviewed	Privileged	Redact	Relevant
1	B 調査責任者	258	0	0	258	0	0	0
2	C 調査担当者	258	0	0	258	0	0	0
3	D 調査担当者	258	0	0	258	0	0	0
4	Ryo Kijima	258	1	1	251	1	1	3

EV.cloud eディスカバリ 画面サンプル②

The screenshot displays the Veritas Advanced eDiscovery interface, specifically the E-Discovery module. It shows a search results page with 1032 emails found, filtered by 'SaaS'.

Search Criteria: Shows filters applied: 'Custodians Selected: All', 'Match Criteria: All', and 'Filters: Contains SaaS'.

Review Status Tags: A modal window shows the following tags: Not reviewed, Escalate, Irrelevant, Privileged, Redact, and Relevant. The 'Relevant' tag is highlighted with a red arrow pointing from the main search results area.

Not reviewed: 未レビュー

Escalate: 要確認

Irrelevant: 関連なし

Privileged: 秘匿特権情報

Redact: 要墨入れ

Relevant: 関連あり

下記などで検索が可能です。
メッセージ内容、件名、From、To、添付ファイルの有無、添付ファイルのタイプ、添付ファイルの名前、送信日

各メールに、レビューステータスを付与

Not reviewed: 未レビュー

Escalate: 要確認

Inrelevant: 関連なし

Privileged: 秘匿特権情報

Redact: 要墨入れ

Relevant: 関連あり

Export Options: Shows selected items for export (3 items) and export formats: EML with EDRM, PST with EDRM, MSG with EDRM, and FTI-RingTail. The 'PST' option is highlighted with a red box.

Review Status: Shows the 'Relevant' status is selected for export.

レビューステータス等を指定して、エクスポート可能です。

Merge1 キャプチャできるアクティビティ（一部のSaaS 1/2）

MS Teams

- Chat Messages
- Private Channel Messages
- Public Channel Messages

キャプチャされるメッセージには下記を含みます。

- Chat/Channel info
- Mentions
- Attachments
- Third-party integration apps and bots
- Emojis
- Reactions

SharePoint Online

- Newsfeed/Document library/ Picture library posts
- Newsfeed /Document library/ Picture library comments
- Custom lists
- Custom lists comments
- Site page comments

OneDrive for Business

- Uploaded files
- Renamed files
- Move to events with the file
- Delete event without the file1
- New created documents via browser with the file

Merge1 キャプチャできるアクティビティ（一部のSaaS 2/2）

Box

- Posts
- Files
- Comments
- Shares
- Deletes (Requires triggers)
- Edits (Requires triggers)
- Links
- Polls
- Private chats
- Group chats
- Feed poll choices (If Modify all data permission is enabled)
- New event/task/contact/opportunity/case/lead
- All online communications, including attachments and deleted information (if the triggers are set)

SLACK eDISCOVERY

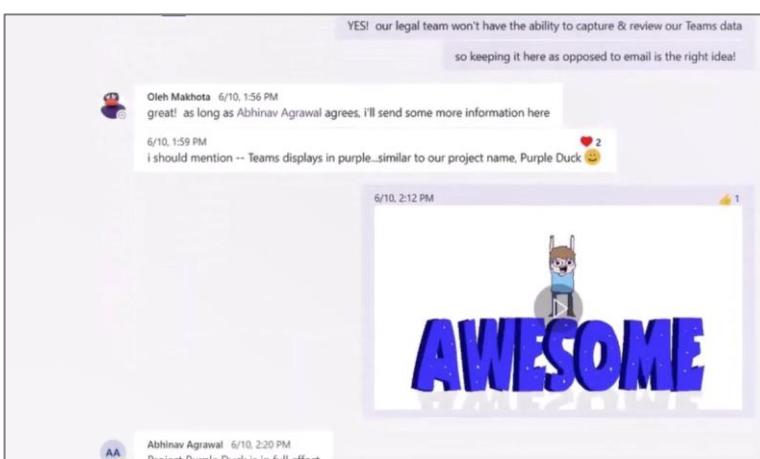
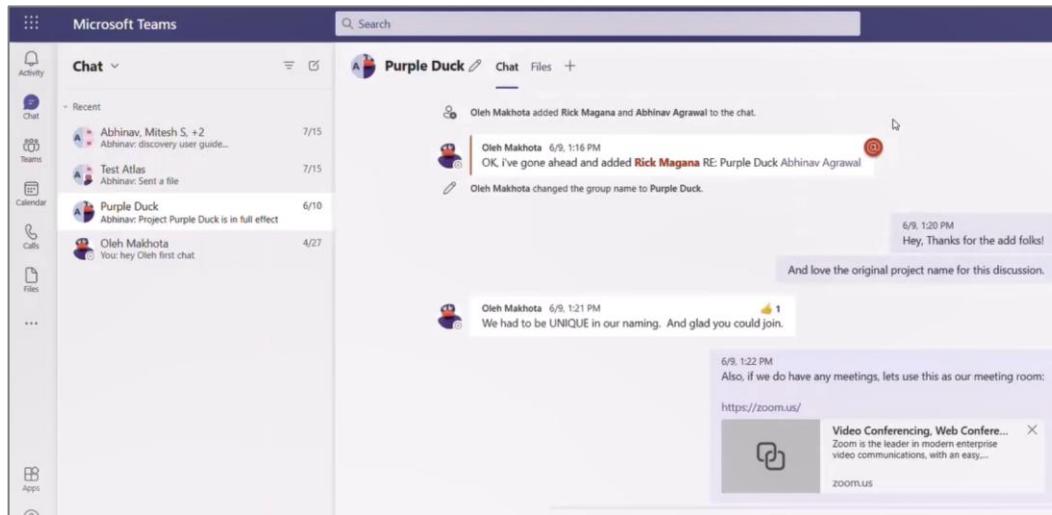
- Activities from all workspaces
- Direct messages
- Multi participant direct messages
- Channel conversations/messages
- Attachments (the attachment itself is included in the message generated by Merge1 as an attachment)
- Attachments shared using third-party integrations such as OneDrive (only the link is included in the body of the message generated by Merge1)
- Emojis (as text)
- Deletes (including the deleted message and the event itself)
- Edits (including the message before and after it is edited)
- Guest conversations
- Message reactions (Note: Reactions for deleted messages aren't captured.)
- Shared channel events (channels shared with external organizations¹)
- Channel join event
- Set channel purpose event
- Files delete event

レビュー画面 (MS Teams)

Collaborationタブを選択することで、チャット全体のネイティブ表示が可能です。

The screenshot shows the Veritas Advanced eDiscovery interface. On the left is a navigation sidebar with options like Home, Investigations, Microsoft Teams, and e-Discovery. The main area has tabs for New Date Search, Advanced Search, and Query Search. A search bar shows 'localhost:4200#/investigations'. The results panel displays '53 search result found.' under 'Emails (50)' and 'Collaboration(3)'. A red box highlights the 'Collaboration(3)' tab, which is labeled with the text 'Collaborationタブを選択' (Select the Collaboration tab). Below this, a conversation between four users (mitesh shah, abhinav agrawal, oleh makhota, rick magana) is shown in a native MS Teams style. A URL preview for 'https://www.amazon.com/Ducks-in-the-Window-Purple/dp/B07NMFSL3Q/ref=sr_1_5?dchild=1&language=en-US' is shown with the text 'URLプレビュー' (URL Preview). The message content includes actions like 'Edited' and 'Deleted', which are labeled with 'リアクション表示' (Action display). A file attachment icon is labeled with 'Classificationタグ' (Classification tag). Another file attachment is labeled with '添付ファイル表示' (Attachment display).

レビュー画面 (MS Teams)



MS Teamsの画面と同様に、
スレッドでチャット内容を確認可能

This screenshot shows the Veritas Advanced eDiscovery interface. The search results page displays 7 search results found, specifically under the 'Collaboration(4)' tab. It lists messages from Oleh Makhota, Rick Magana, and Abhinav Agrawal, which correspond to the ones shown in the MS Teams screenshot. The interface includes a sidebar with file navigation and a bottom section for saving results.



VERITAS™

ありがとうございました

Copyright © 2022 Veritas Technologies, LLC. All rights reserved.

This document is provided for informational purposes only and is not intended as advertising. All warranties relating to the information in this document, either express or implied, are disclaimed to the maximum extent allowed by law. The information in this document is subject to change without notice.